

**日本原子力学会 2024年秋の大会
原子力安全部会 企画セッション
地震・津波に対する原子力発電所の安全性
～能登半島地震の教訓の具体化～**

2024/9/13(金)13時~14時30分 @東北大学 E会場

司会 山本章夫 (部会長/名大)

講演 1 「志賀原子力発電所の状況」 四十田俊裕 (北陸電力)

講演 2 「地震リスク評価等への教訓」 糸井達哉 (東大)

総合討論

企画セッションの狙い

- 前日の理事会セッションは、原子力学会外部の専門家（東大・佐竹健治氏、東北大・今村文彦氏、日大・中村晋氏）をお招きし、能登半島地震について、地震・津波の現状や土木学会の議論をご紹介いただいた。
- 安全部会の企画セッションは、原子力安全の専門家を講師に招いて、次を紹介し、能登半島地震の教訓を具体的に議論する。
 - 志賀原子力発電所では実際に何があったのか
 - 既存の安全対策には、能登半島地震において、どの程度の安全余裕が残っていたか
 - 地震リスク評価における想定等に見直すべきことはあるか

(参考) 講演内容のまとめ

志賀発電所の現状

- 地震直後から、外部電源、監視設備、冷却設備、非常用電源等の機能は確保されており、原子炉施設の安全確保に問題はなかった。
- 地震後の設備点検は概ね終了し、被害を受けた設備も復旧又は応急処置済み。復旧に時間を有する設備へは、計画的な復旧対応を予定。
- 主要建屋、排気筒、土木構造物、建屋内主要設備の耐震健全性を確認済

学協会における最近の活動からみた能登半島地震

- 2024年能登半島地震で見られた事象は、過去の取り組みを踏まえて、おおむね標準等で考慮されている状態であったが、責任が明確でない境界領域には取り組みの進捗が不十分なものも見られる。
- 今回の地震についても、議論を限定しすぎないことが重要

総合討論のポイント

ポイント1： Good Practice を含む 教訓の抽出

- 安全性向上のための繊細な気付きを得るための「問いかけ」を、登壇者&聴衆から募集します。例えば、
 - ✓2007年能登半島地震（又は、現行規制基準への適合に向けた）プラントの再評価・改造は、今回の地震への対応に役だった？
 - ✓人員確保やロジスティクス等、今回の地震に特徴的だとされる問題は、原子力安全へどの程度影響した？（まずは原子炉安全を中心に）

ポイント2： 教訓の一般化

- 国内外のプラントへ水平展開できる教訓は出し切れているか？
- 今回の経験を踏まえ、過小／過大評価していた事項があるか？